

# こんなことあったよ！レポート

平成 20 年 12 月 11 日(木)

第3回東北風景街道協議会 編



協議会会場



藤崎 東北風景街道協議会会長 あいさつ  
(東北経済連合会 副会長)



登録証交付(佐々木先生)



活動報告発表

**去**る 12 月 11 日、「第 3 回日本風景街道協議会」が仙台市（場所：フォレスト仙台）で行われました。昨年度より延び延びになっていた日本風景街道登録団体への登録証の交付と、平成 19 年度登録団体（13 団体）が活動報告を行いました。当白神 NW からは佐々木貴信先生（木高研）と佐藤康弘（国交省能代河川国道事務所）が参加しました。

**H**19～20 の活動報告は、制限時間 4 分（かなりシビアに）の中で、「毘沙門憩いの森感謝祭」や「のしろまち灯り」の事例を基に佐々木先生より発表頂きました。（もちろん時間内で）

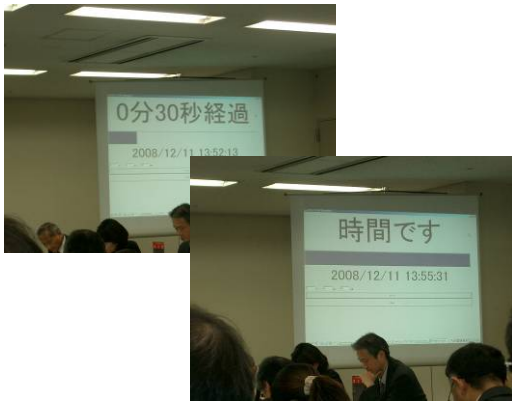
**事**務局からのアドバイスとして「木のまちづくり」をコンセプトに地域と一丸となった活動が活発に行われており、季節に応じた「のしろまち灯り」というまちおこしイベントなどが地域に定着しつつある。一方、遠景にある地域資源について、障害物の除去やポケットパークの整備等が必要。活動内容の広報は活発に行われているが、地域資源と一体となったルートマップ作成などによる広報の充実が必要。というコメントを頂きました。

**ま**た、協議会の委員の方からの意見として、松田悦子委員（日本青年会議所 東北地区協議会直前会長）より、「秋田県北はリサイクルの先進地であるのでリサイクルとの関連の話題も入れてほしい」、「子供達とのふれあい、関わり合いがあることはよいことだが、地元の高校等とも一緒に活動してほしい。」との意見も頂きました。

**そ**の後、13 団体発表後の総括ということで堀教授（東京大学 アジア生物資源研究センター）からの講評があり、今後の風景街道の目標は「商品開発」であり、商品開発をしながら「儲ける」儲けることにより、「地域活性化」をしようという内容でした。「商品開発」の意味としては 3 つあり

- ① 儲けないと長続きしない。
  - ② 儲けないと後継者が出てこない
  - ③ 100 年～200 年続けて貰いたい
- 上記①～③より、「商品開発」が重要だということです。

風景街道の主目的では無いが頭の片隅にいれてほしいとのことでした。



発表時間にはかなり厳しい会議でした。



登録13団体の記念撮影。



登録13団体の記念撮影。(佐々木先生アップ)



第二部 堀教授との懇談会

商品開発での注意点としては

- ① 一人よがりになっていないか？  
→共感を得れば人は来る！
- ②目標設定はしっかり！  
→地域をどうしたらよいか？  
子や孫に何を残したいのか？

そういったことを考えながら活動してほしいとのことでした。

**最**後に堀教授より、覚えてほしいとのこと  
で一言ありました。「ちょっとの違いが大違い。」  
まさしく読んで字のごとく、効果的な一手を打た  
ないとずれていく、とのことでした。

**ま**た、協議会終了後、堀教授と各団体との懇  
談会も開催されました。先程話した商品開発につ  
いて、具体例を挙げながら各団体と質疑を重ねま  
した。

最終的に風景街道は、「地域にビジネスチャン  
スをもたらす仕事」だということで、ビジネスを  
するのは、旅館、店、飲食店であり、風景街道の  
活動の中に商業行為が入って来るのが理想だとい  
うことでした。

**会**議に参加して、他の団体の色々な活動の  
話を聞いたことや、協議委員からの色々な視点で  
のアドバイスを参考にしながら今後の白神 NW  
の活動に活かして行きたいと思いました。

発表：佐々木 貴信  
文：佐藤 康弘



●風景街道登録証  
のしろ白神のみちが東北では第1号！です。